



KAAT 神奈川芸術劇場芸術監督トーク
 シライズカフェ
 『SHIRAI's CAFÉ』 Vol.6
 レポート

2019年3月30日(土) 15:45~
 KAAT 神奈川芸術劇場 1F アトリウム
 芸術監督：白井晃(演出家・俳優)
 ゲスト：ROLLY(ミュージシャン)

白井晃芸術監督が、演劇や音楽のことをゲストのミュージシャンと語り合う企画。第6弾のゲストは、ロック、シャンソン、ジャズ、クラシック、演劇、読み聞かせ、作詞、作曲など多才に活躍する ROLLY さんです。白井と ROLLY さんは、ミュージカル『星の王子さま』(2004)で出会いました。その後、白井が演出した『三文オペラ』(2007)『ビッグ・フィッシュ』(2017)にも出演しています。



『SHIRAI's CAFÉ』の会場は神奈川芸術劇場 1F アトリウムです。が、白井が ROLLY さんを紹介し、招き入れたところ、その姿は突如2階の大階段上に。アコースティックギターで弾き語りをしながらエスカレーターを上り下りし、見栄を切り、階段を下り、さらには会場の外に出ようとする素振りまで。いつもとひと味違う、大笑いの幕開けになりました。ROLLY さんは「優れた音楽家の皆様がいらっしゃっているこの企画に、音楽の右も左もわからない私を呼んでいただいて。ギターのコードも中学生程度の知識くらいしか知らなくて、なんとなく雰囲気です。でもなんとなくで 55 歳までやってこられたのをうれしく思います。白井さんの作品にはいくつか出演させていただいていますが、最後の最後まであきらめない演劇への情熱を感じます。それに対して、素人の私は至らないところばかり。自分から“もう一回、もう一回”と何度も繰り返し稽古させていただくなど付き合わせて申し訳ない」と挨拶。

ギターをエレキに持ち替え、自惚れ屋とキツネの二役を演じた『星の王子さま』の《あれはただの麦畑》を披露。

ここでホールで上演している劇団四季の『パリのアメリカ人』が終演してお客様がエスカレーターで下りてくると、《パリの散歩道》を披露、しかも『オペラ座の怪人』から《Phantom of the Opera》の一節付き。そして《パリの散歩道》はゲイリー・ムーア、《Phantom of the Opera》はスティーブ・ハーレイによるロックだったことを紹介して



くださいました。実はギタリストに関する知識は半端なものではなく「ロック・ギター異人館」(シンコーミュージック編集部刊)という本を出したばかりの ROLLY さん。この本ではクラブトン、ジミーペイジ、ジミヘンなど有名どころではなく、日本人がなかなか知らない名演を遺したギタリストを取り上げたそうです。

話は変わって『三文オペラ』に。ジェニーという娼婦を演じたほか、全楽曲の作詞も担当しました。その時、「ドイツ語の原曲を1カ月聞き続けて、何か降りてくるのをずっと待っていました。日本語だけどドイツ語に聞こえる言葉はないかと」と考えていらしたとか。そして ROLLY さん作詞の三文オペラの有名な曲《モリタート》を披露。さらに《モリタート》のメロディで自身の人生をつづった曲へ。これは白井も初めて聞くそうで、20分かかると知って「途中で止めるかもしれませんよ」と、客席と一緒に身構えていました。「私は平凡なおじさんよ、もう少しおじいさんになってしまうおじさんよ」と歌い始めては「まだウォーミングアップ」、また少し歌っては「ちょっと飽きてきたでしょうが、後半に入ります」「そろそろ初恋編に入ります」と解説付。ユーモラスな歌詞は癖になりそうで誰もが聴き入っていました。



「僕もジャズに好きな歌詞を当てて歌うんですけど、ROLLY さんの音に対する歌詞の当て方は天才的」(白井)

「ミュージカルに出演させていただくと、結構な割合でメロディと歌詞がもっといい感じならば、さらに勢いが出るのに、と思うことがあって」(ROLLY)

そんな訳詞の難しさの話はあらぬ方向に。実は ROLLY さん、お菓子のネーミングや由来が書かれた紙を集め、曲をつけて歌うのが特技なのだ

そう。チョコレートの「GODIVA」の、裸の女性が馬に乗ったマークの由来をエドワード・エルガーの荘厳な《威風堂々》に乗せて朗々と歌いました。さらにシューベルト《アベマリア》、ホセ・ラカジェの《アマポーラ》を、独自の物語を描いた歌詞で披露。

「歌は自由。小説や映画だと奇抜な設定の物語を考えるのに、POPS の歌は普通のことしか歌わないのが多いですよ。そうじゃないと自分を投影できないから。でも心は自由です。音楽で誰も想像もしない世界に行くことができるのに、すごくもったいない」と持論を展開。そんな話の締めくくりは《月まで飛んで》。

どこまでもユーモアにあふれた『SHIRAI' s CAFÉ』 Vol.6、まだまだ話したそうな ROLLY さんですが、またもアコースティックギターをその姿が見えなくなっても弾き続け、イベントは終わりを迎えました。